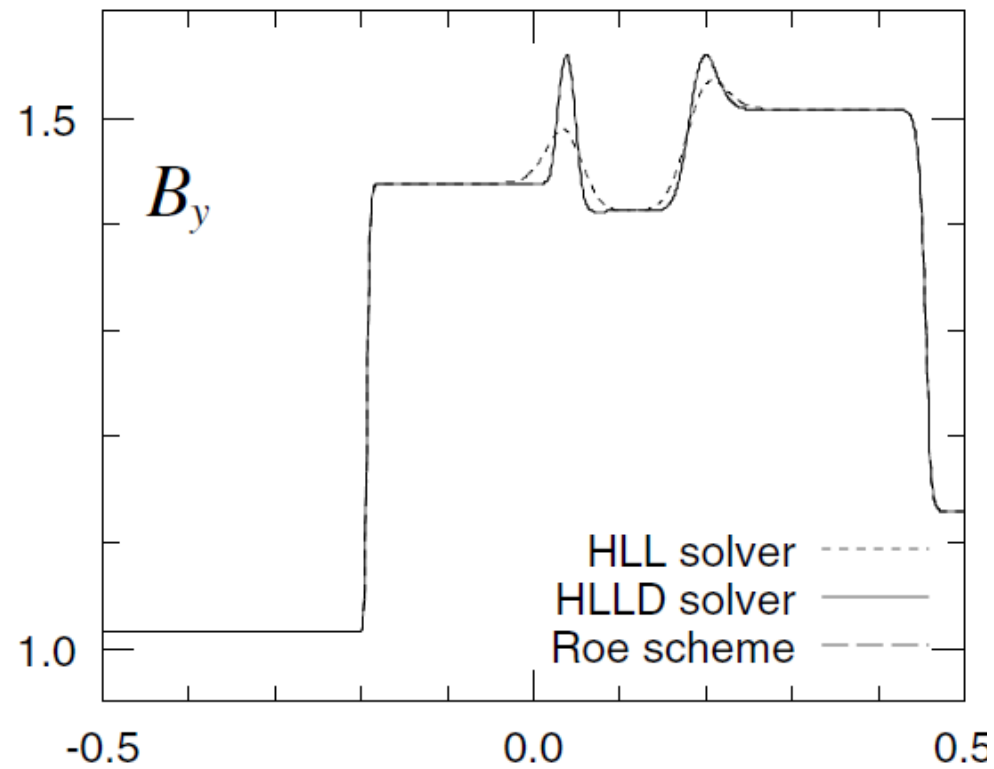
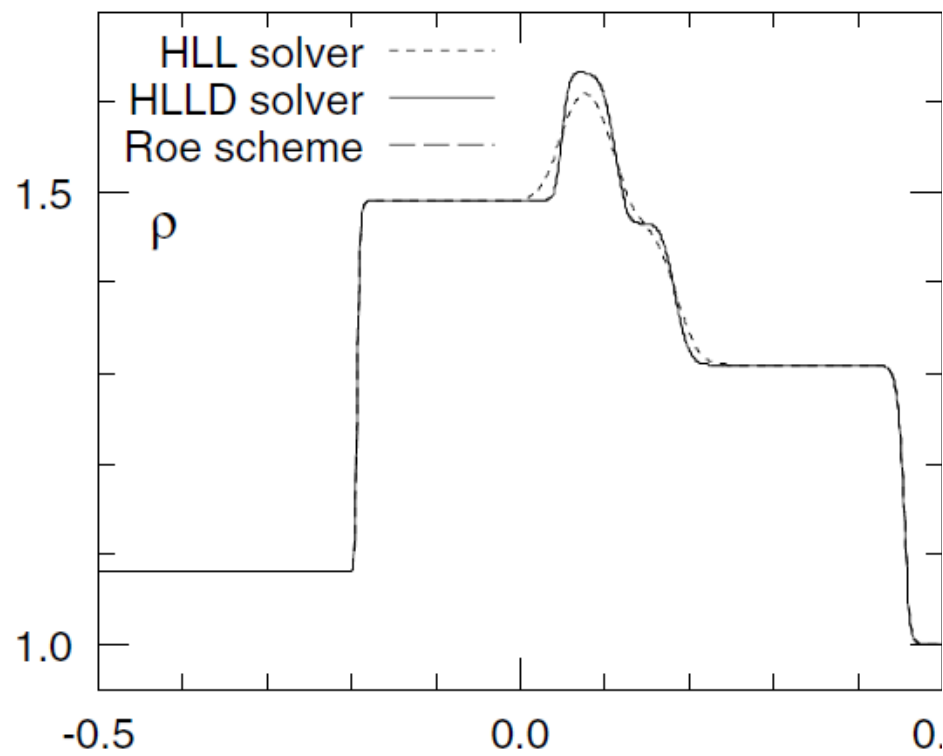


サマースクール発表

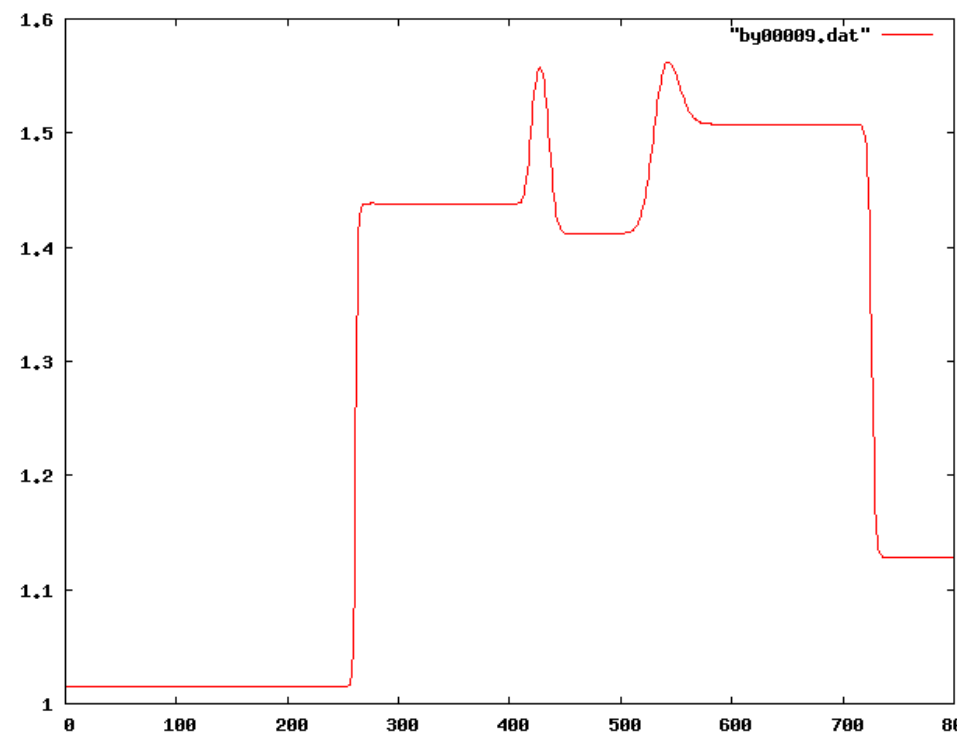
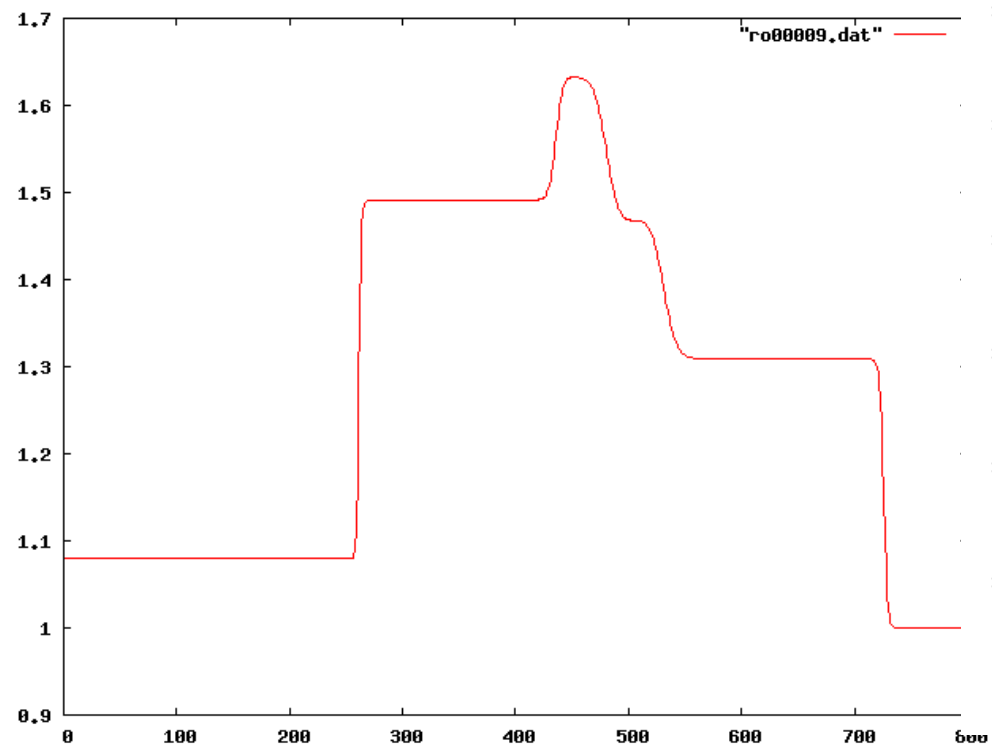
九州大学
理学府地球惑星科学専攻
橘田 英之

今回行ったこと

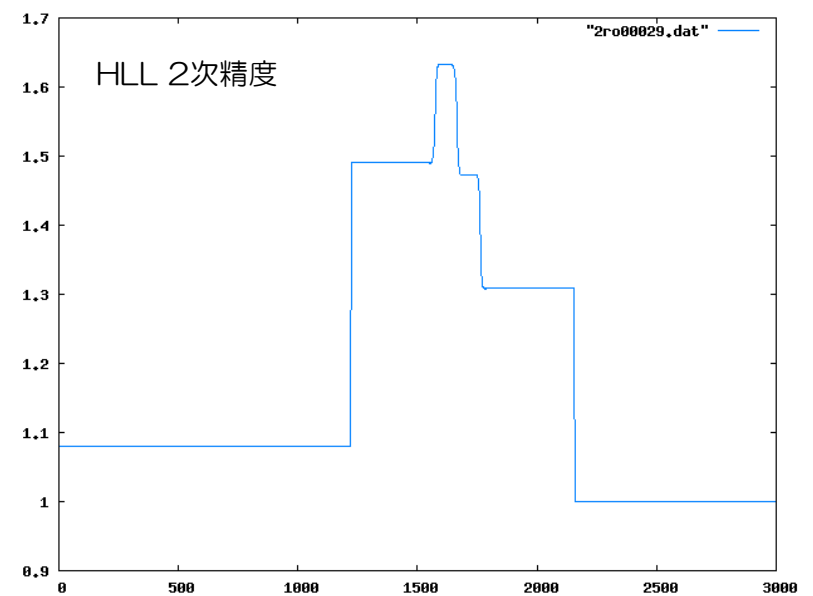
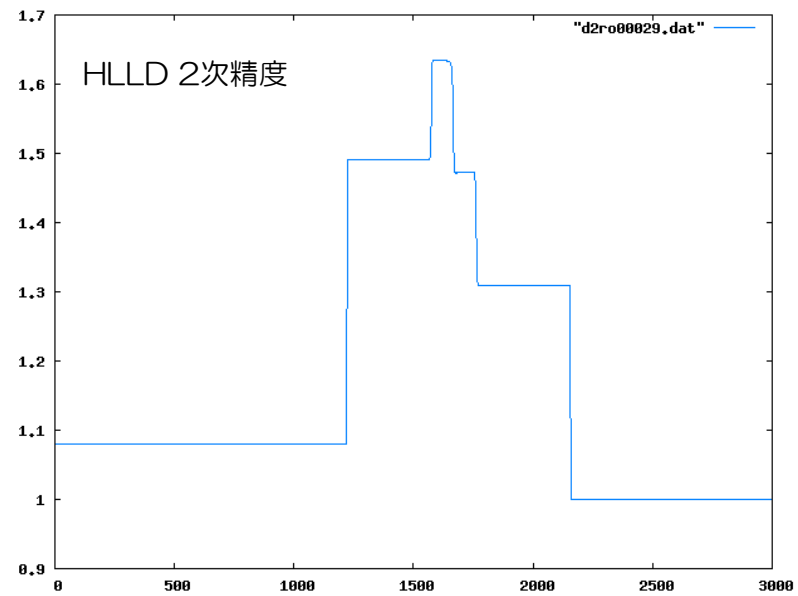
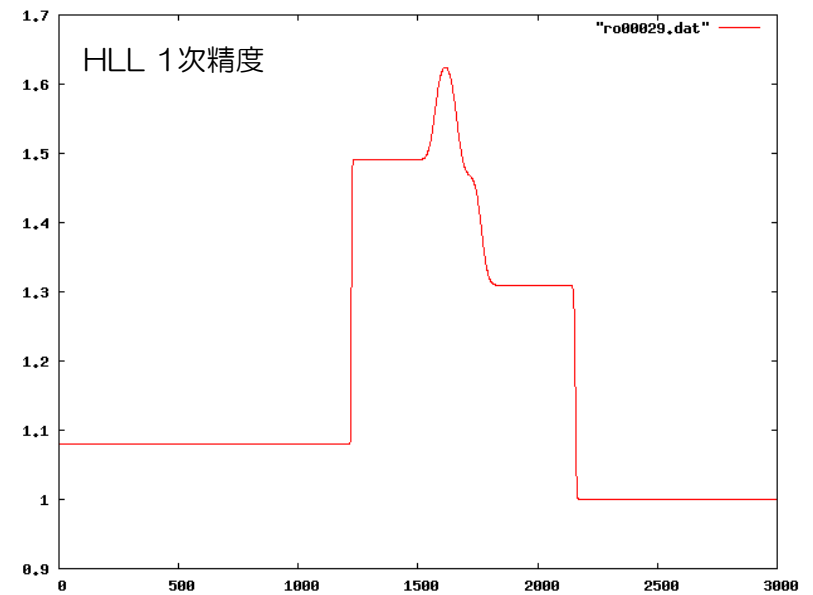
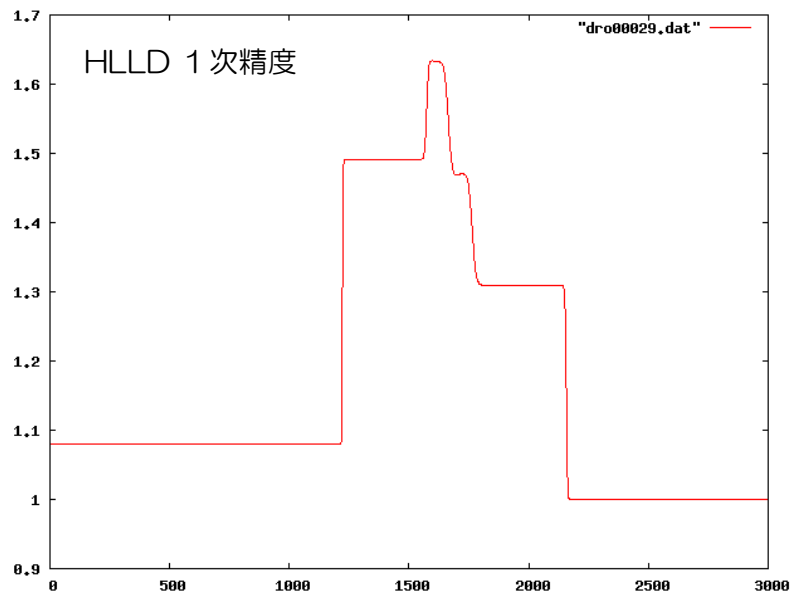
- 風上差分法による数値計算
- HLLD近似リーマン解法,HLL近似リーマン解法を用いた衝撃波管問題の計算
- MUSCL補間による2次精度への高次精度化

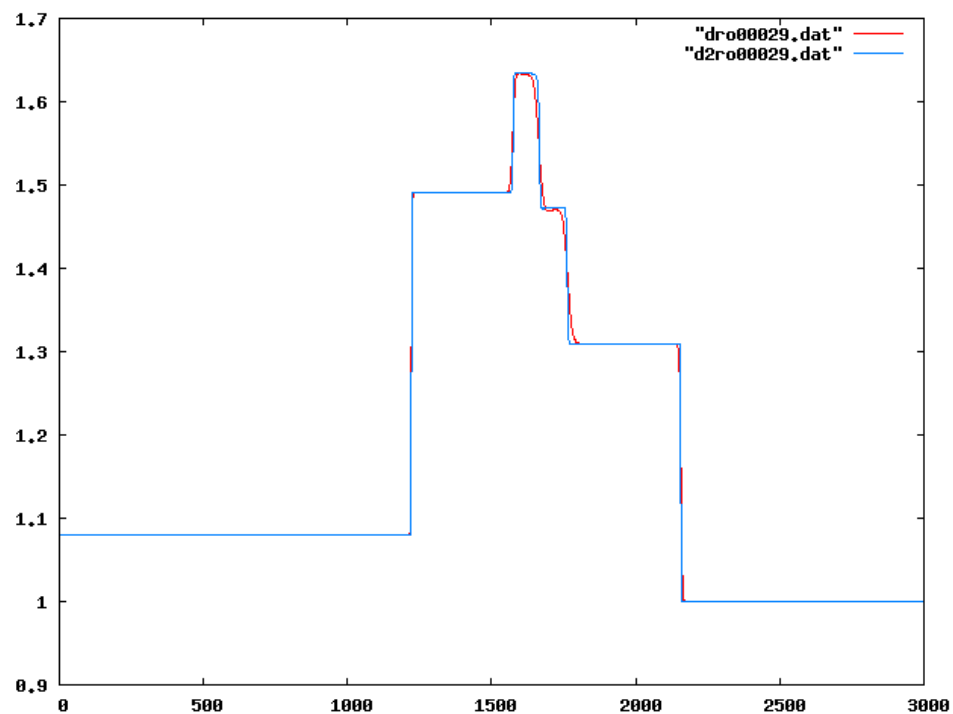


Miyoshi, Kusano(2005)

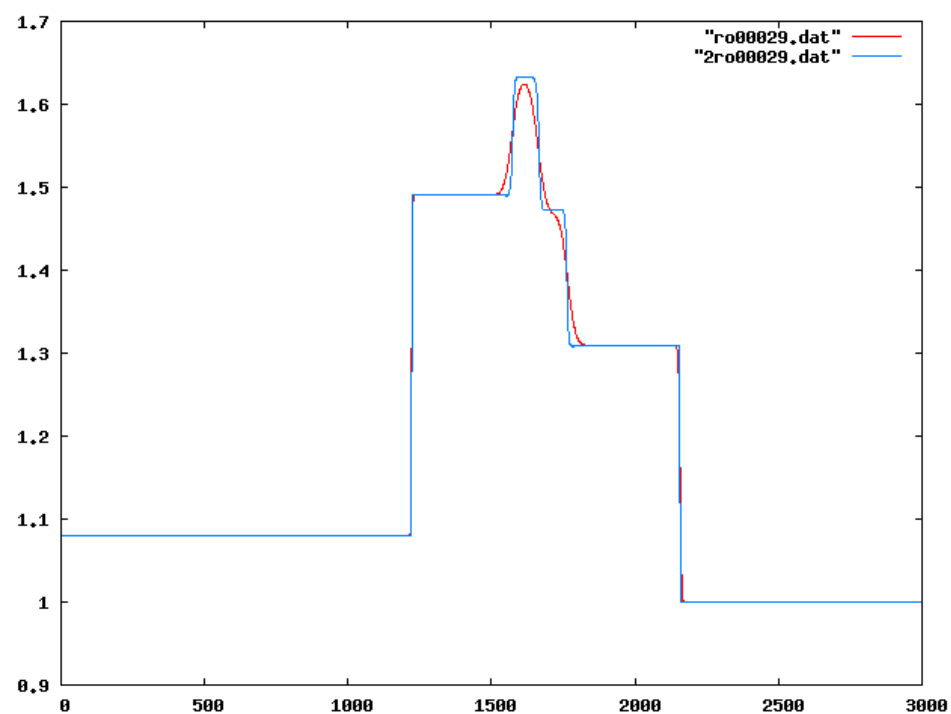


高次精度化





赤: HLLD法 1次精度
 青: HLLD法 2次精度



赤: HLL法 1次精度
 青: HLL法 2次精度

高次精度化する事で、なまりが減りより衝撃波がはっきり見えた!

まとめ・今後

- 差分法のプログラムを作り、計算を行った
- MUSCL補間によって高次精度化を行った
- 今後は、計算を多次元化して行い、IDLによる可視化を行ってみたい